



伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol 32 (令和8年10月)
発行: 伊丹市立幼児教育センター
住所: 伊丹市千僧1-1
電話: 072-780-2488
アドレス: youkyosenta@city.itami.lg.jp

★伊丹市架け橋期の教育連絡協議会 地域部会 第1回を終えて

伊丹市架け橋期の教育連絡協議会 地域部会が、8月末までに全7ブロックで実施されました。私達、幼児教育センター架け橋期のコーディネーターも参加しましたが、多くのブロックで地域部会初年度であった昨年度より参加者が増え、参加者同士で活発に語り合う姿が見られました。

～令和8年度 第1回 地域部会～

【成果】

- ・写真や動画を用いる等、各ブロックで方法を工夫しながら子どもの学びを共有したり、架け橋期のカリキュラム(5歳児版)(1年生版)に紐づけて話し合ったりすることで、就学前から小学校への学びや育ちのつながりを確認できた。
- ・5歳児以外の年齢担当や乳児のみの施設から、また1年生担任以外の学年から参加があったブロックもあり、0歳児からの学びが架け橋期につながっていること、架け橋期は5歳児と1年生のみの取り組みではなく0歳児からの連続した学びが大切であることを幅広い学年の先生方で共有できた。
- ・就学前、小学校それぞれの子どもの姿を共有する中で、就学前で培った子どものよさや育ちが小学校につながっていると同時に、課題も共通していることがわかった。

【今後に向けて】

- ・就学前、小学校ともに、子どもの「やってみたい」「知りたい」「伝えたい」を大切に、主体的な学びにつなげていく。
- ・就学前、小学校双方の取り組みを写真や動画等で可視化して共有したり、保育や授業を見合ったりする中で、子どもの姿をもとに学びを見取り共有することで、相互理解を促進し、実践に活かしていく。



★第2回地域部会は…

A①ブロック…3月1日(月)、A②ブロック…1月21日(木)、Cブロック…1月22日(金)、
Dブロック…1月26日(火)、Eブロック…1月28日(木)、Fブロック…2月16日(火)、
その他のブロックも日程調整中です。時期がまいりましたら各ブロック拠点園よりご案内します。
第1回地域部会に参加できなかった施設の皆様もぜひご参加ください。
また、拠点園においてこ保幼小接続に係る研修会が開催される際にもブロック内施設へご案内があります。ぜひこちらも併せてご参加ください。5歳児担当だけに限らず、幅広い年齢担当の先生方で架け橋期の教育保育についてともに学び合いましょう。

若手対象 自主勉強会

11/13(金)18:15～19:15 に開催する予定です。(途中参加・退出自由)

詳細は、時期がまいりましたら各施設にご案内いたします。ご予約おきください。

☆こんな内容でやってほしい!のリクエストも随時募集中です。

★おススメ保育専門書

☆紹介の専門書は貸本として幼児教育センターに置いておりますので是非ご利用ください。

「保育を見ること、語り合うこと」

著作:西 隆太郎・伊藤美保子 発行:小学館



園での子どもと保育者の様子を写真・動画で撮影されたものを、著者が子どもの姿、保育者のかかわりなどについて語っています。0歳児～5歳児の保育シーン22例を掲載。何気ない保育者の視点に注目してみると「保育を見る眼」が豊かになり、保育の質のアップにもつながるかと思えます。2次元コードつきで11の動画が見られますので、より子ども理解へと繋がるおススメの1冊です。



「発達が気になる子の認知遊び」

著作:藤原 里美 発行:日本文芸社

本書で紹介する150個の「認知発達遊び」は、日常のなかで遊び、関わりながらその子のペースで認知の土台を育てていく為のものです。

認知発達を7つの領域に分けて解説し、それぞれの領域を育てる具体的な遊びの提案をしています。

★アドバイザー通信「子どもも保育者もやってみたいが学びの芽！」

今年度になり、特別訪問に伺う機会を多くいただくようになってきました。

○主体的な環境についてどうしたらいいか一緒に考えてほしい ○他園を見学に行き、自園に活かしたい
○配慮を要するお子さんへの関わり方や環境について一緒に考えてほしい
○こども家庭庁の「はじめの100ヶ月」について研修をしてほしい ○10の姿について研修をしてほしい
○保護者支援について研修をしてほしい…等様々な内容でお声をかけて頂く度に、日々忙しい中にも関わらず、各施設の先生方が「子ども達の為に」と学ぼうとされ、笑顔で対話を通して同じ職場の中で人間関係を更に深められているご様子に、先生たち凄い!!と、私たちセンター職員もとても沢山の刺激や喜びを頂いています。先生方のお気持ちに少しでも応えたい!と全力で取り組むことは私たちの「やってみたい!」にも繋がり、胸いっぱいになりながら帰路についています。今後も、お声掛け下さるお気持ちに感謝の気持ちをもちながら、様々なお声に共に歩いていける幼児教育センターでありたいと思います。

(幼児教育アドバイザー 坂本)